

# あさがお 栽培のポイント ③

## つるが伸び始めたら

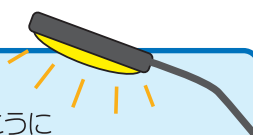
- あさがおはつる性植物です。支柱へつるを巻き付け上へ上へと伸びていきます。本葉からつるが15cm~20cmほど伸びた頃支柱を立てましょう。あさがおのつるは基本的に左巻きです。支柱へつるを誘引するときも左へ左へと巻き付けてあげるようにすると、まとまり良く仕立てる事ができます。

誠文社のクイック支柱には「つるキャッチ」という、つるを引っ掛けるクリップがついています。つるをまとめるのに非常に便利です。

- 鉢は日当たりが良く、風通しの良い場所に置き、夜間は照明の当たらない場所に置きましょう。

### あさがおは短日植物です。

つるはよく伸びているのに、蕾がつかない、花がいつこうに咲かないという原因の一つに街灯の明かりや部屋からこぼれた明かりが影響していることがあります。夜間、あさがおに明かりが当たると日が長いと勘違いをします。



## 水やりについて

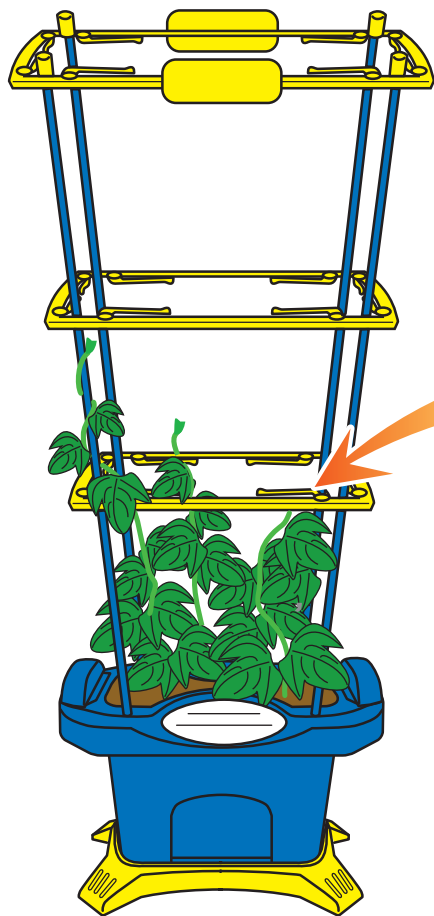
- 水やりは土の乾き具合を見て、午前中に行うようにしましょう。水は葉や茎にかけるのではなく、土全体にたっぷり撒くようにしましょう。6月は気温が高くなったり、天気の悪い低温の日が続いたり天候が不安定です。天候、土の乾き具合、あさがおのようすを見ながら、水やりの量の調整をするようにしましょう。

あさがお植木鉢用の受皿を利用すれば、休日の水やり対策になります。誠文社のペットジョウロをペットボトルに取り付け、受皿にジョウロを下にして立てます。

自然環境と同じように、植物の必要に応じて下から水を吸い上げます。

※受皿を使った、ペットボトルでの自動給水は、水やりの補助的な役目をするものであり、水やりが一切不要になるわけではありません。

- 気温が高くなってきた頃、あさがおが葉をたくさんつけ、どんどん繁ってきましたら、受皿には常に水がはっているようにするのも、良い方法の一つです。



植木鉢G型



植木鉢G型